

1. 単元名 日本の諸地域と山梨のこれから

2. 単元について

(1) 生徒の実態

本学級には、35名が所属している。内23名が附属小学校からの内部進学者である。

本学級の生徒は、一人ひとりが学習に取り組む高い意欲をもっている。提示された課題に取り組む姿勢は大変に真面目である。とくに、与えられた学習プロセスの中で課題解決に向かうことを得意とする生徒が多い。授業中は、教師や他の生徒の意見に熱心に耳を傾けたり、学習内容のポイントを自分なりに見定め、自主的にノートなどに書き込んだりしている。

一方で、提示された課題の解決に自分なりの方法で取り組むことは苦手な生徒が比較的多く、もっぱら教師の例示した方法や周囲の多数の生徒が選択した方法で課題解決に取り組もうとする生徒が多い。自らの考えを表現することに苦手意識をもった生徒の割合も高い。また、グループでの話し合い活動では特定の生徒のみが話し合いを進め、教師からの促しがなければ一言も発しない生徒も複数いる状況がある。日頃の学校生活においても、関係性があまりない他者と自ら関わろうとする生徒の割合が低く、小集団がいくつか存在しているような状況である。小集団の中での関係は良好で、お互いに積極的にコミュニケーションを取っている様子が伺える。

本単元の学習においては、生徒一人ひとりが「自分の学習」として、学習活動に取り組めるようにしたい。そのためには、単元を貫く問いの解決に向かうプロセスについて、これまでの学習経験を生かして、主体的に取り組ませることが必要であると考え。具体的には、学習方略を生徒自身が選択する場面を設定したい。また、自らの考えを表現する場を多く設定するために、基本的には1つの学習課題に対して各自が探究的に学習を進める複線型の授業構成としたい。これによって、学級内に存在する小集団の人間関係を生かして、生徒が自らの考えを表現することができるようになることを考える。小集団での交流を徐々に広げることで、学級全体の積極的な交流が促されることも期待したい。

(2) 題材観

本単元は、学習指導要領（平成29年告示）第2章第2節 社会の地理的分野の内容 C（3）「日本の諸地域」および（4）「地域の在り方」に基づき、設定した単元である。ここでいう「地域」とは、学校所在地の周辺を指し、一般的には市町村単位で設定することが一般的であるが、本校は山梨県内各地の生徒が在籍しているため、本単元では「山梨」を指すものとした。

単元を貫く問いとして、「これからの山梨はどのようにあるべきか」を設定し、「自分たちの地域としての山梨」の在り方について構想させる。その際、学習指導要領解説で示されているとおり、既習の視点である「自然環境」、「産業」、「人口や都市・村落」、「交通や通信」などに着目させたい。また、生徒が「地理的な見方・考え方」を働かせて、これまでの学習を生かして構想できるようにするため、「山梨の在り方を考えるための事例」という位置づけで、日本の諸地域を学習させたい。そのため、2つの中項目を合わせて1つの単元として設定した。

単元の初めに、山梨が抱える課題について分析させ、単元を貫く問いを設定させる。その上で、持続可能な社会を実現するという観点で、どのような在り方が望ましいのかを考えさせたい。

次に、日本の諸地域を7つに分けて学習させる。1つの地域を1つの小単元として設定する。小単元の学習の流れは、次のとおりである。

- (i) 学習対象の地域における、中核となる事象について調べる。[1時間]
- (ii) 中核となる事象と他の事象を関連付け、地域的特色をまとめる。[2時間]
- (iii) 地域の課題について、人々がその解決のために、どのように取り組んでいるかをまとめる。[2時間]

単元の間では、日本の諸地域を学習する中で得た知識を結び付けさせたり、多面的・多角的に考えさせたりして、単元を貫く問いについて自分なりに選択・判断を行わせたり、その考えをまとめさせたりする。また、その追究の過程を通して、「より豊かな山梨をつくるためにはどうすればよいのか」という問いを立てさせ、後半の学習につなげたい。

各地域を学習させる順番は教科書に準じて、九州地方、中国・四国地方、近畿地方、中部地方、関東地方、東北地方、北海道地方とする。前半の4つの地域を学習した上で、単元を貫く問いである「山梨の人口減少を食い止めるためにはどうすればよいのか」について考察、構想させる時間を設定したい。前半の4つの地域については、各地域を学習させる際の、中核となる事象については、「山梨の在り方」を構想することに資するよう、「持続可能な社会づくりを踏まえた視点」で捉えたときに、山梨が直面している課題に関連のある「地域の課題」が浮き彫りになるようなものを選びたい。また、「自然環境」、「人口や都市・村落」、「交通や通信」、「産業」の4つの視点すべてを中核として考察させる経験を積ませたい。具体的には、九州地方では「自然環境」、中国・四国地方では「人口や都市・村落」、近畿地方では「交通や通信」、中部地方では「産業」を中核とした考察を行わせる。

後半の3つの地域については、「より豊かな山梨をつくるためにはどうすればよいのか」という問いを解決するためにはどのような視点が重要か、これまでの学習の振り返りを踏まえて選択させ、その視点を中核とした考察を行わせる。

なお、各小単元の学習では前単元「日本の地域的特色と地域区分」において系統的に学習した、日本全体としての地域的特色についての知識を生かしていきたい。また、上記のような形で小単元を構成すると懸念されるのが、各地域に見られる地理的事象についての知識の定着が不十分になってしまうことである。これについては、学習指導要領解説に「地理的分野の目標は国土のすみずみまで細かく学習しなくても達成できる」(文部科学省、P68)、「学習した地域の特徴がある程度総合的に捉えられるようにすることが大切である。」(文部科学省、P69)などと示されているとおりで、この単元では、各地域の地理的事象の詳細を扱う必要性はないと考える。

単元の終末には、単元全体の学習を生かして、「より豊かな山梨をつくるためにはどうすればよいのか」という問いに対する自分なりの結論をまとめさせる。

(3) 指導観

本単元の学習においては、主体的な学びを実現するため、本校全体研究で提案している「主体的な学び」のプロセスモデルを生かしたい。とくに、生徒が「学習方略」を選択したり、必要に応じて選び直したりしながら学習を進め、自分なりに課題の解決に向かえるよう、複線型の授業構成としたい。

単元の学習全体については、クラスごとに共通した単元を貫く問いを設定し、その解決に向かわせる。生徒は、次のような形で「学習方略」を選択しながら学習を進め、自分なりに単元を貫く問いを解決し、レポートにまとめる。(表1)

表1 単元の学習活動と「主体的な学び」のプロセスモデル

単元の学習活動	「主体的な学び」のプロセスモデル
・単元を貫く問いの設定	目標設定
・今後の学習の見通しを立てる。 ＝ゴールの設定	方略計画
・小単元①～③の学習	遂行
・単元を貫く問いに対する考えをまとめる。 ・ゴールの達成状況の確認	振り返り
・今後の見通しを立てる	方略調整
・小単元④～⑦の学習	遂行
・単元を貫く問いに対する考えをまとめる。 ・ゴールの達成状況の確認 ・ゴールの評価 ・単元の学習の振り返り	全体の振り返り

本単元では、単元を貫く問いや毎回の授業の課題についてはある程度教師が与えた枠の中で設定することとした。理由は、「自ら社会の形成に関わろうとする生徒」の資質・能力を育むために有効であると考えたからである。本単元は2年次の学習であり、「自ら社会の形成に関わろうとする生徒」の資質・能力を育成する途中段階である。「自ら社会の形成に関わろうとする生徒」の資質・能力を踏まえると、社会的事象について「自分事」として捉えて課題を見出す資質・能力や自ら見出した課題や社会において課題とされていることが本当に課題と言えるのか吟味する資質・能力は大切であると考え。しかし、はじめからそのような資質・能力を発揮させることは難しく、むしろある程度与えられた枠の中で学習を進める中で、社会的事象が「自分事」になっていたり、課題を見出すコツをつかんだり、自ら見出した課題や社会において課題が本当に課題と言えるのか疑問がわき、探究しようとする意欲をもつようになったりする経験ができると考えた。その学習経験の中で、資質・能力が育まれるといえる。

「学習方略」については、教科総論で示したとおり、生徒との対話を通して積み上げ、更新していくものである。クラスごとに多少の表現の違いがあることも想定される。本単元は、3年間の学習の途中段階にあることから、「学習方略」について生徒の気づきや考えを共有する機会を定期的に設け、生徒のもつ「学習方略」を広げたり、深めたりしたい。

3. 単元の目標

- ・日本の各地域について、地域的特色や地域の課題を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・日本の各地域に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地域の課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ・自らの地域の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこに見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 日本の各地域について、地域の特色や地域の課題を理解している。 - 山梨の実態や課題解決のための取組を理解している。 - 山梨の地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解している。	- 日本の各地域について、中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応等に着目して、他の事象やそこで生じる課題と有機的に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。 - 山梨の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性等に着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	山梨の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

5. 指導と評価の計画（全 44 時間） ○：評定に用いる評価 ●：学習改善につなげる評価

	学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
単元の導入	【単元を貫く問い①】 「どうすれば人口減少を食い止めることができるのだろうか。」 ①人口減少の影響について、様々な地域と共通することをまとめる。 ②人口減少に関わる山梨の実態についてまとめ、「単元を貫く問い①」を設定する。また、その解決に向けたゴールを設定する。	●		●	●山梨の抱える課題について、既習事項を生かして、視点を明確にして考察している。 ●単元を貫く問いを解決するために必要なゴールを、見方・考え方を働かせて適切に設定している。
小単元①	「九州地方」【中核：自然環境】 問い：九州地方はどのような地域なのだろうか。また、地域の抱える課題にどのように向き合っているのだろうか。 ①九州地方に見られる「自然環境」について整理する。 ②「自然環境」の視点から見た九州地方の「人口」の特色について整理する。 ③「自然環境」の視点から見た九州地方の「産業」の特色について整理する。 ④「自然環境」の視点から見た九州地方の「交通・通信」の特色について整理する。	●	●	●	●九州地方について、「自然環境」に着目してまとめている。 ●九州地方の「人口」の特色について、九州地方の自然環境との関連性に着目してまとめている。 ●九州地方の「産業」の特色について、九州地方の自然環境との関連性に着目してまとめている。 ●九州地方の「交通・通信」の特色について、九州地方の自然環境との関連性に着目してまとめている。

	⑤「自然環境」の視点から見たときに、九州地方が抱えている課題について考察する。 ⑥「自然環境」の視点から見たときに、九州地方が抱えている課題について、解決を目指してどのように向き合っているか整理する。		●	●九州地方の抱えている課題について、持続可能な社会を推進する観点から考察し、表現している。
小単元②	「中国・四国地方」【中核：人口、都市や村落】 問い：中国・四国地方はどのような地域なのだろうか。また、地域の抱える課題にどのように向き合っているのだろうか。 ①中国・四国地方に見られる「人口」の様子について整理する。 ②③「人口」の視点から見た中国・四国地方の特色について考察する。 ④⑤「人口」の視点から見たときに、中国・四国地方が抱えている課題について、解決を目指してどのように向き合っているか整理する。	●	●	●中国・四国地方について、「人口」に着目してまとめている。 ●中国・四国地方の特色について、「人口」と他の事象と関連づけて、多面的・多角的に考察している。 ●中国・四国地方の抱えている課題について、その解決に向けて各地でどのような取り組みが行われているのかをまとめている。
小単元③	「近畿地方」【中核：交通や通信】 問い：近畿地方はどのような地域なのだろうか。また、地域の抱える課題にどのように向き合っているのだろうか。 ①近畿地方に見られる「交通や通信」の様子について整理する。 ②③「交通や通信」の視点から見た近畿地方の特色について考察する。 ④⑤「交通や通信」の視点から見たときに、近畿地方が抱えている課題について、解決を目指してどのように向き合っているか整理する。	●	●	●近畿地方について、「交通や通信」に着目してまとめている。 ●近畿地方の特色について、「交通や通信」と他の事象と関連づけて、多面的・多角的に考察している。 ●近畿地方の抱えている課題について、その解決に向けて各地でどのような取り組みが行われているのかをまとめている。
小単元④	「中部地方」【中核：産業】 問い：中部地方はどのような地域なのだろうか。また、地域の抱える課題にどのように向き合っているのだろうか。 ①中部地方に見られる「産業」の様子について整理する。	●		●中部地方について、「産業」に着目してまとめている。

	②③「産業」の視点から見た中部地方の特色について考察する。 ④⑤「産業」の視点から見たときに、中部地方が抱えている課題について、解決を目指してどのように向き合っているか整理する。		●	●	●中部地方の特色について、「産業」と他の事象と関連づけて、多面的・多角的に考察している。 ●中部地方の抱えている課題について、その解決に向けて各地でどのような取り組みが行われているのかをまとめている。
単元を貫く問い①追究	①これまでの学習を踏まえて、4つの視点を生かして、山梨の人口減少の要因を考察する。 ②人口減少を食い止めるために山梨でどのような対策が取られてきたのか、どのような議論があったのかを調査する。 ③人口減少を食い止めるための具体策について構想する。 ④人口減少を食い止めるための具体策をより現実的で、より多くの人の納得を得られるものにする。【本時】 ⑤人口減少を食い止めることで、山梨が本当に豊かになっていけるのか検討し、「単元を貫く問い②」を設定する。また、はじめに設定したゴールの達成状況を振り返り、今後の学習に見通しをもったり、ゴールを見直したりする。		●	●	●他の地方の特色や抱えている課題を考察する学習を通して得た情報や考え方を生かして、多面的・多角的に考察している。 ●山梨における人口減少対策の経緯について、対策を考えたり、講じたりしてきた主体に着目して整理している。 ●これまでの学習を生かして、山梨の人口減少を食い止めるための具体策を考えている。 ●山梨の人口減少を食い止めるための具体策について、「実現可能性」「持続可能性」に着目して再考し、表現している。 ●山梨の人口減少を食い止めるための具体策について構想する中で気づいた山梨の課題に着目し、人々のよりよい生活の実現のためには何が必要か考えている。 ●自らの学習の達成状況を振り返り、今後の学習を調整することができる。
小単元⑤	「関東地方」【中核となる視点：生徒が選択】 問い：関東地方はどのような地域なのだろうか。また、地域の抱える課題にどのように向き合っているのだろうか。 ①生徒が選んだ視点に関わる、関東地方の特徴について整理する。 ②③生徒が選んだ視点から見た関東地方の特色と抱えている課題について考察する。 ④⑤生徒が選んだ視点から見たときに、関東地方が抱えている課題について、解決を目指してどのように向き合っているか整理する。		●	●	●関東地方について、自らが選んだ視点に着目してまとめている。 ●関東地方の抱えている課題について、持続可能な社会を推進する観点から考察し、表現している。 ●関東地方の抱えている課題について、その解決に向けて各地でどのような取り組みが行われているのかをまとめている。

小 単 元 ⑥	「東北地方」【中核となる視点：生徒が選択】 問い：東北地方はどのような地域なのだろうか。また、地域の抱える課題にどのように向き合っているのだろうか。 ①生徒が選んだ視点に関わる、東北地方の特徴について整理する。 ②③生徒が選んだ視点から見た東北地方の特色と抱えている課題について考察する。 ④⑤生徒が選んだ視点から見たときに、東北地方が抱えている課題について、解決を目指してどのように向き合っているか整理する。	●	●		●東北地方について、自らが選んだ視点に着目してまとめている。 ●東北地方の抱えている課題について、持続可能な社会を推進する観点から考察し、表現している。 ●東北地方の抱えている課題について、その解決に向けて各地でどのような取り組みが行われているのかをまとめている。
小 単 元 ⑦	「北海道地方」【中核となる視点：生徒が選択】 問い：北海道地方はどのような地域なのだろうか。また、地域の抱える課題にどのように向き合っているのだろうか。 ①生徒が選んだ視点に関わる、北海道地方の特徴について整理する。 ②③生徒が選んだ視点から見た北海道地方の特色と抱えている課題について考察する。 ④⑤生徒が選んだ視点から見たときに、北海道地方が抱えている課題について、解決を目指してどのように向き合っているか整理する。	●	●		●北海道地方について、自らが選んだ視点に着目してまとめている。 ●北海道地方の抱えている課題について、持続可能な社会を推進する観点から考察し、表現している。 ●北海道地方の抱えている課題について、その解決に向けて各地でどのような取り組みが行われているのかをまとめている。
単 元 の ま と め	①「単元を貫く問い②」に対する自分の考えをまとめて、レポートを書く。 これまでの自分の考えを振り返り、ゴールの達成状況をまとめる。また、設定したゴールを評価する。 自らの学習の質を振り返る。	○	○	○	○学習した内容を踏まえて「単元を貫く問い②」に対して考察し、表現している。 ○「単元を貫く問い」に対する自分の考えの変化を捉え、自らの学習を振り返るとともに、ゴールの有効性や妥当性について考えている。 ○自らの学習を振り返り、次の学習に生かそうとしている。

6. 本時について

(1) 日時 令和5年11月23日(木・祝) 9:45~10:35

(2) 会場 山梨大学教育学部附属中学校 赤レンガ館

(3) 題材 山梨の人口減少を食い止めるための具体策を提案しよう。

(4) 本時の目標

- ・他者と交流したり、これまでの学習を振り返ったりして、「山梨の人口減少を食い止めるための具体策」について、持続可能性や実現可能性に着目して考えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】

(5) 本時の流れ

	【学習内容】 ○学習活動	・指導上の留意点 □評価規準等
導入 5分	【前時の確認】 ○各自で考えた、山梨の人口減少を食い止めるための具体策を確認する。 ○本時の学習課題を確認する。 「山梨の人口減少を食い止めるための具体策」をより具体的で、多くの人の納得を得られるものにするためにはどうすればいいだろうか。	
展開 40分	【交流・更新・深化】 [30分] ○必要に応じて、各自で意見交換をしたり、これまでの学習を振り返ったりして、自らの考えを更新したり、深めたりする。 【クラス全体で意見共有】 [10分] ○代表生徒が最終的な考えを発表する。	・何らかの形で、必ず「交流」は行うように指導する。 □ワークシート 交流などを通して、自らの考えを深めたり、単元を貫く問いのまとめの見通しをもったりしている。
まとめ 5分	【本時のまとめ】 ○本時の学習内容をまとめた教師の話を聞く。 【本時の振り返り】 ○スタディ・ログに、本時の振り返りを記入する。	

(6) 板書計画

- ・本時の学習の流れを掲示する。

(7) 本時の評価

A (「十分満足できる」状況と判断されるもの) の例	B (「おおむね満足できる」状況と判断されるもの) の姿	C (「努力を要する」状況と判断されるもの) への支援
多様な相手と積極的に意見交流をしたり、自らの学びを振り返ったりする中で多面的・多角的に考えて、山梨の人口減少を食い止めるための具体策について、「実現可能性」「持続可能性」に着目して再考し、表現している。	山梨の人口減少を食い止めるための具体策について、「実現可能性」「持続可能性」に着目して再考し、表現している。	自分と違う視点をもった他者と交流したり、「実現可能か」、「継続的に取り組めるのか」に注目して考えるようアドバイスをしたりする。